

## (2) 亜高山帯



### 1) 環境の特徴

亜高山帯は、北アルプスの前山である有明山や鍋冠山等、標高 1,600～2,400m の地域です。ほとんどの地域は、コメツガが優勢する常緑針葉樹林により覆われています。標高が高くなるにつれて多雪と雪崩の影響でダケカンバ群落が目立つようになります。

亜高山帯は、多様性に富んでいて、野生生物の生育・生息地として重要な環境となっています。

### 2) 環境を指標する種

環境	環境を指標する種
常緑針葉樹林 	植物：オオシラビソ、オサバグサ、コメツガ、シナノザサ、シラビソ、ダケカンバ、テングノコヅチ、トウヒ  動物：カモシカ、ククイタダキ、ヒガラ、ホシガラス、アラメハナカミキリ、オオクロツヤマグソコガネ、キタカタグロカスミカメ、ツノグロモンシデムシ、トラハナムグリ、ナガマルハナバチ、ハクサンホソヒメクロオサムシ、ヒメキマダラヒカゲ、ヒラタクチキウマ

### 3) 代表的な地域

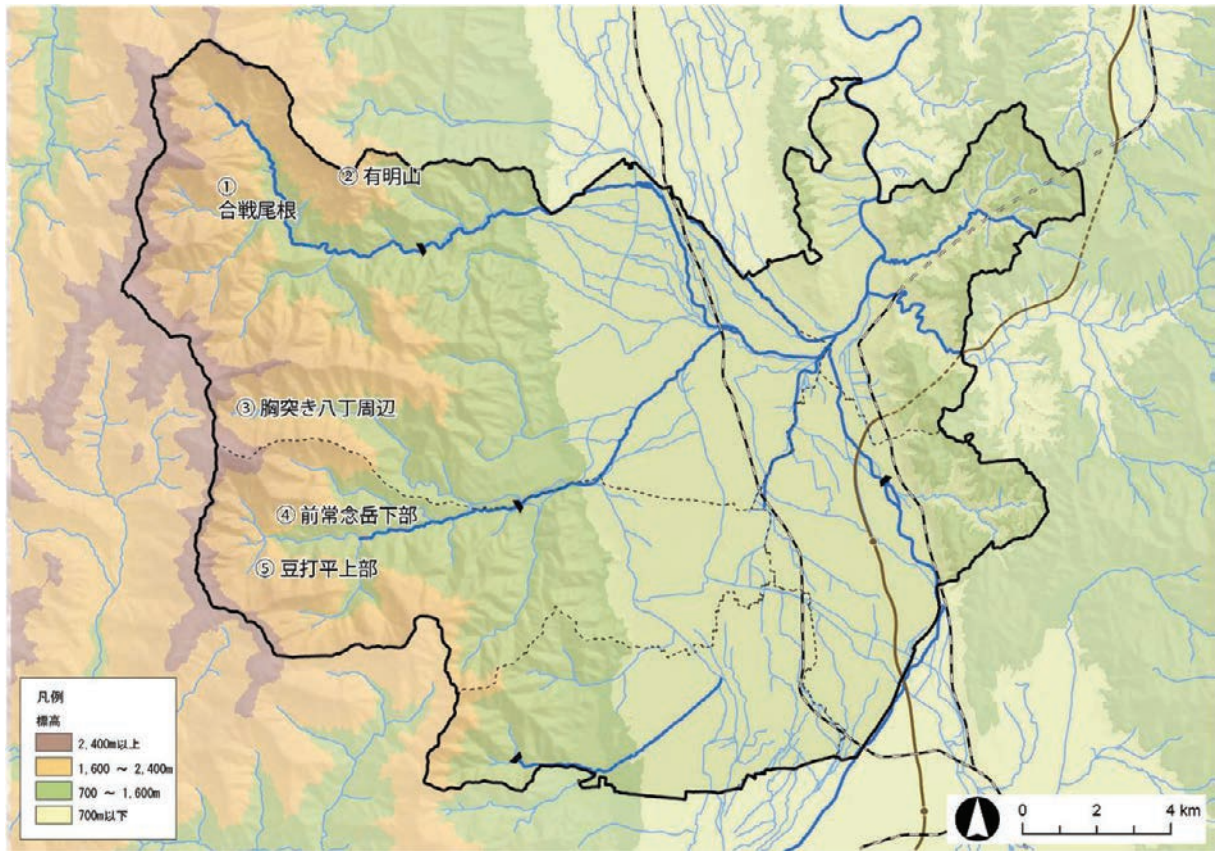
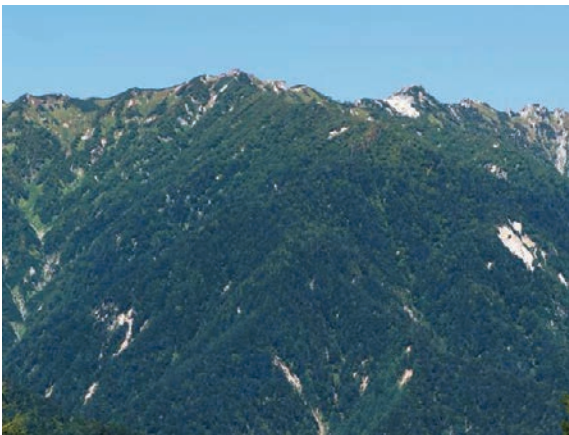


図 5-2 重要な自然環境のみられる代表的な地域（亜高山帯）

#### ①合戦尾根



#### [地域の特徴]

標高約 2,380m の合戦小屋より下部はコメツガを主体とする針葉樹林帯です。コメツガ林の中にトウヒ、チョウセンゴヨウ等がわずかにあります。

#### 【主に生息・生育する野生生物】

植物：コメツガ、ダケカンバ、チョウセンゴヨウ、トウヒ、ヒメコマツ

動物：ツキノワグマ、キクイタダキ、ヒガラ、ホシガラス、ヒメオオクワガタ

## ②有明山



### [地域の特徴]

有明山（2,268m）の中腹から頂上にかけては発達した常緑針葉樹林に覆われています。山頂にはハイマツ群落があります。急峻な山容で表土に乏しいためコメツガ林の中にサワラ、ヒノキ、クロベ等が混じります。

### 【主に生息・生育する野生生物】

植物：コメツガ、ダケカンバ、チョウセンゴヨウ、ヒメコマツ

動物：ニホンザル、キクイタダキ、ヒガラ、メボソムシクイ

## ③胸突き八丁周辺



### [地域の特徴]

一ノ沢上流、常念登山道の標高2,050～2,100m付近の急斜面は、左岸側にお花畑があります。夏季には、ニッコウキスゲ、クルマユリ、テガタチドリ等、多くの高山植物が花を咲かせています。

### 【主に生息・生育する野生生物】

植物：クルマユリ、テガタチドリ、ニッコウキスゲ

動物：メボソムシクイ、ルリビタキ、オオクロツヤマグソコガネ、クモマベニヒカゲ、ベニヒカゲ

## ④前常念岳下部



### [地域の特徴]

三股から前常念岳への登山道で標高約2,170mの尾根にいたる急斜面は、コメツガ、シラビソ、トウヒ等の針葉樹林に覆われています。この中に数は少ないですが、チョウセンゴヨウの大木がみられます。

### 【主に生息・生育する野生生物】

植物：キソチドリ、コメツガ、シラビソ、チョウセンゴヨウ、テングノコヅチ、トウヒ

動物：ヒガラ、メボソムシクイ、ルリビタキ、オオクロツヤマグソコガネ、ハクサンホソヒメクロオサムシ

## ⑤豆打平上部



### [地域の特徴]

三股から蝶ヶ岳へ向かう途中にある豆打平（約2,000m）より標高の高い地域には、常緑針葉樹林に日本固有の植物のオサバグサがみられます。オサバグサは標高約2,300m付近まで分布しています。

### 【主に生息・生育する野生生物】

植物：オオシラビソ、オサバグサ、テングノコヅチ、トウヒ

動物：キクイタダキ、ヒガラ、ルリビタキ、キタカタグロカスミカメ、ヒメマルクビゴミムシ

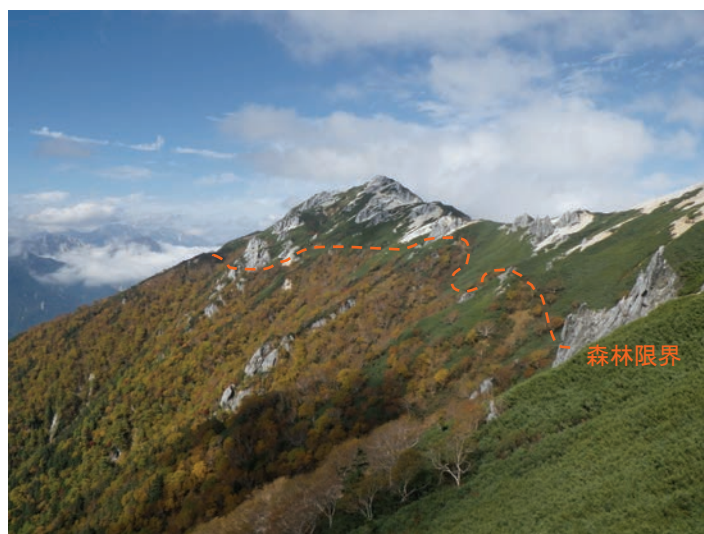
## □■ 森林限界 ■□

森林限界とは、高い樹木が生育できなくなる限界の標高のことを指し、亜高山帯と高山帯との境界にあたります。

高い樹木が生育できなくなる原因としては、多雪と強い風、低温の影響とされており、一般的に高緯度の場所ほど森林限界は低い標高になる傾向があります。

安曇野市の北アルプスにおいては、森林限界より低い標高の場所（亜高山帯）では、オオシラビソ、コメツガ等による常緑針葉樹林やダケカンバ等の落葉広葉樹林がみられます。

それより標高の高い場所（高山帯）では、ハイマツ等の低木や草原が広がっています。



森林限界（大天井岳付近）